

ダイアベティス（糖尿病）の治療に役立つツールをご紹介します

令和7年5月15日発行

看護局

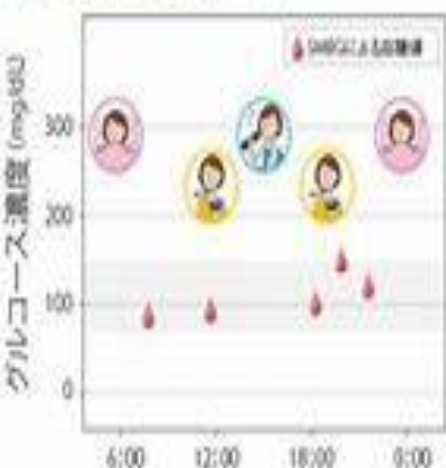
従来、糖尿病という病名は「高血糖」と「尿糖が出る」という由来で使用してきましたが、排泄物である「尿」という言葉がいい印象でないため、日本糖尿病学会が提唱した「ダイアベティス（DM）」に移行しつつあります。DMは、過食で病気になったのではなく、膵臓の機能不全や、インスリンが分泌していても、うまく使えないこと（これを抵抗性といいます）が要因であることがわかっています。今回は DM の治療に役立つ便利な血糖値の自動モニターを紹介します♡

点から線へー血糖トレンド

1 型 DM では必須となる治療のツールが自己血糖測定（SMBG）です。2 型 DM で内服での薬物療法で効果が乏しい場合も必要になります。しかし、ここ数年で、持続グルコース測定器（CGM）が登場しました。



● 血糖自己測定 (SMBG)



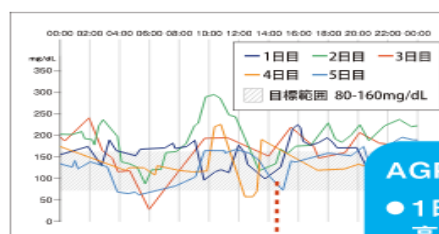
● 持続グルコース測定 (CGM)



このセンサーで間質液中のブドウ糖を自動で測定でき

点から線になることで治療や生活（食事・運動）の振り返りが可能で改善していきます

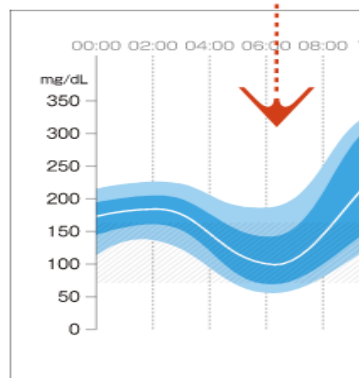
AGP とは、血糖変動を視覚的に把握する解析方法です。現在はすべてのインスリン療法をされている方に保険適応できます



日によって異なる複数の血糖トレンドの曲線から、1日のうち「どの時間帯に」「どのような変動を」起こすことが多いのかを読み取るのは難しい。

AGPで解析すると、

- 1日のうちで低血糖/高血糖となる可能性の高い時間帯
- 血糖値の変動が大きい時間帯などが視覚的に簡単に把握できるようになります。



目標範囲 80-160mg/dL

